

令和5年度 福島市産官学連携プラットフォーム

本市市域における高等教育のグランドデザインについて

令和5年9月に実施した会議より

—プラットフォームで検討すべき課題—として下記①、②実施。

① 産業振興と結びつけた PBL の実施について

昨年度「地域課題解決型の実践的な教育プロジェクトの提供」に関して、福島市をフィールドとした学びや各大学の授業を連携しプログラムを作成するなどの可能性を話し合った。今回、それと産業振興と結びつけた PBL の実施について実現可能か話し合いを実施。



・議題1 課題解決のために実行する事項(例)として福島市をフィールドとしてどのような PBL ができるかの意見交換。

松崎委員：昨今の当市ならではの課題(海洋処理水に対する風評被害)に対して、良くも悪くも注目を浴びていることから、これを逆手に取って学生や若い人に情報発信してもらいたい。

渡辺委員：福島市による女性起業者の応援プロジェクト参加者で今年は積極的な受講者が多いので、学生へ働きかけができればいいのではないかと。

西内議長：昨年、「国際女性会議 WAW!」の活動の活性化により、種まきはできているので今後につなげたい。

朽木陪席：若い人が都心から本市に就職希望するよう市の魅力を発信できれば定着につなげられるのではないかと。

持田委員：海洋処理水に対する風評被害についての情報発信に関して、人体への影響などの

知見を大学間で連携を図り、それぞれの大学の分野を強みに学生を中心に F8 として取り組みができればいいのではないかと。また、話題の問題を取り上げるのではなく地域に住んでいる者が楽しく普通に元気に暮らしている姿を発信したほうが、風評被害に捉われることなく魅力あるアピールとなるのではないかと。

西内議長：福島市へは引き続き議題についての提案をいただきたい。

・議題2 人事交流について、豊田市高等教育活性化推進プラットフォームの実績を紹介す

るとともに実施に向けての意見交換。

西内議長：配点表の0点を1点でも多く加点につなげたい。

松崎委員：制度の仕組みと折り合いがつけば実現できる。福島市としても各所へ派遣を出しているの、互いのメリットを見出せば可能である。

西内議長：就職に関して、市と大学で交流すればインターンシップだけでは伝わらない、内側からみえる組織また外側からも組織のことがよくみえることで、より理解できる。

渡辺委員：可能性について同友会に持ち帰り検討したい。

持田委員：学生だけでなく大学職員の交流ができればよい。

角田委員：更に具体的に進めば検討がしやすくなるのではないか。

事務局（菅野）：今後、課題を詰めて実施の可能性を探る。事務局より素案をつくり各機関へヒアリング、交渉を進めたい。

事務局（岩本）：来年2月を目途に提案したい。

② 機関間での人事交流について

人事交流について

改革総合支援事業タイプ3（プラットフォーム型）に同様に採択されている豊田PFと情報交換を行い、人事交流制度について調査を行った。

○豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム（略称：豊田PF）（中京大学主幹校）について

高等教育機関の資源を活用し、「地元就職の促進」「健康意識の醸成」「学校教育活動の支援」等の諸課題を解決することで、地域の高等教育及び地域社会の発展に寄与することを目的として豊田市と豊田市に本拠地を置く4大学等（中京大学、日本赤十字豊田看護大学、愛知工業大学、豊田工業高等専門学校）、一般社団法人ツーリズムとよた、宮田電工株式会社によって形成。



次年度までに交流に関しての話し合いの場を持つことを各機関内で確認。